

対話と出会いで、一歩が変わる。

TIP*S POST

Summer 2018

<http://tips.smrj.go.jp/>



TIP*S とは何か

TIP*Sは、中小機構が運営する新しい学びの場です。年間約200回のワークショップやイベントを通じて参加者同士が対話することで、それぞれが新たな気づきや想いを胸に、自ら決断し、アクションを起こし始めています。

イベントに集まるのは、何か行動したいと感じている多彩な方々。中小企業と大企業、地域と都会など、垣根を越えた人々との出会いを生みだし、それぞれの想いや活動を支え合う関係づくりを目指しています。

TIP*S での学び

TIP*Sのワークショップや講座は、バリエーション豊か。ひとりひとりの「一歩進みたい」を、丁寧に応援したいという思いで、さまざまな企画を考えています。

そして、イベント当日は、対話が自然と盛り上がる雰囲気づくり、さらに学びを深めたい方同士のつながりづくりに力を入れています。

まずは気軽に、関心のあるイベントに参加してみてください。多様なバックグラウンドを持つ参加者同士で話すほど、刺激を受けあってモヤモヤします。

そのモヤモヤが、自ら考え、行動するためのステップ。いつのまにか「一歩進んで」いるはずです。

Access



〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル 6F 611 区

JR 東京メトロ丸ノ内線 … 「東京駅」丸の内南口より徒歩3分

東京メトロ千代田線 … 「二重橋前駅」4番出口より徒歩3分

TEL: 03-6212-1840 [受付時間: 11:00 ~ 18:00 (平日)]

FAX: 03-6212-1841 E-MAIL: info-tips@smrj.go.jp



TIP*S の「学び」を旬のコンテンツからご紹介



で1冊を読破した一体感を共有しながら、読後の感想や疑問を踏まえ、自分は何を願っているかを参加者同士で対話を重ねます。

本書では、人の意識の発達段階と組織モデルの進化を「色」で表わし、それぞれの特徴が述べられます。現代を代表する企業の多くは、競争に勝つため「機械的に」働く達成型組織 (ORANGE)。一方で、多様性と平等と文化を重視する「家族」のような多元型 (GREEN) も現れています。さらに次の段階の組織が、変化の激しい時代を生き抜く生命体のような「進化型」 (TEAL=青緑) なのだそうです。自主経営、全体性、存在目的を重視したティール組織の具体的な説明や事例とともに、どうしたらティール組織が実現できるのかが述べられます。

参加者からは「組織について書かれた本だが、個のあり方を考えさせられた。自分がどうありたいかという視点を持つため、まず自分を見つめなおしたい」「今の組織がティール組織に変わるためには、マインドセットを変え、全員が主体的に判断する力が必要だと思う」「社内でもABD読書会を開き、ティール組織について一緒に考えてみたい」といった意見が出ました。一冊の本を通じた学び合いで、明日の一步が小さくても変わったら…そう願って開いた読書会。ディスカッションするみなさんの表情を見ていたら、願いは叶うと直感しました。

Voice 参加して下さったみなさまから



コサイさん

看護系マネージャー職に向けた出版業に携わっています。「ティール組織」という本が、高い志を持つ看護職向けの誌面づくりに役立ちそうだと感じ、同僚と参加しました。今回の読書会で本のポイントを短時間で把握でき、参加者間の対話を通じて多くのことを学びました。社内でも共有したいです。



ボチさん

普段、私もワークショップを主宰する立場ですが、TIP*S のイベントはいつも質が高く、今回も安心して申込みました。テーマへの関心や、学びたいという思いで集った方々が年間通して集まっているところに大きな魅力を感じています。いつか独立したいと考えていることもあって、勉強させてもらっています。



やっさん

「open talking スナック」に参加したら本当に楽しくて。知識は増えるし、「くだらないかな」と思いつつ話しても、参加者のバックグラウンドが違うから新鮮に受けとめ合える。TIP*S に行くために僕の退勤が早まったら部下も帰りやすいらしくて、副次的に働き方改革になっているみたいです(笑)。

『場』のウラガワ

身体性のある場づくりが得意なファシリテーター

たえ

イベントの企画・実施を担うスナックTIP*S のママ

だえみ

だえみ—今回、妙さんと Active Book Dialogue という読書法を使うイベントを企画したのは、読書会へ参加するハードルをより下げたかったというのが理由です。参加前に本を読まなくても、読書で得られるストックに触れられる。それも人の力を借りて (笑)。「ティール組織」を題材に選んだのは、話題の本で、TIP*S でも読みたいという声を耳にしていたのと、誰もが未来を生きていくために携えておくという考え方が書かれている印象を受けたからかな。

たえ—そうですね。本は知恵の宝庫ですし、この読書法だと気軽に参加できて、多くの方にその知が行き渡る。参加者に刺さった本文を眺めるだけで発見があり、自分の視野が広がったり、行動が変わることがあると思います。

あと、この読書法はファシリテーションも比較的しやすいので、参加者の方が「私も読書会開いてみようかな、こんな本をほかの人と読んでみようかな」と思ってくださったらうれしいですね。

だえみ—読書会は、会が開かれる場に馴染みがなくても「その本を読みたい」という気持ちさえあれば来られるので、比較的参加しやすいイベントですね。だけど、想いは同じだから場がすごくまとまって、ディスカッションもとても楽しい。

たえ—プレゼンやディスカッションを通して、本の要約には載らない「誰かに響いた言葉」を拾えるのが、Active Book Dialogue の魅力。さらに、今回一冊の本と一緒に読んだという共有が場を盛り上げたように、組織で物事を動かすときに共通言語を持っていることの大切さに気付いてもらえたかと思います。今度はたとえばドラッカーなど、有名な古典を読んでもみるのも楽しそうですね。

丹羽 妙さん

PROFILE

1987年生まれ。京都大学在学中、京都市主催プロジェクト創発型審議会「京都市未来まちづくり100人委員会」に参加。これをきっかけに、場づくりの専門集団、NPO法人場とつながりラボhome's viiに入門、2013年当団体のファシリテーターとなる。個性の輝く組織と社会づくりにむけ、企業、大学、市民活動など、様々な組織での意識変容とコミュニティ形成をサポートしている。

TIP*S Words

TIP*S で生まれた「学びの言葉」

Talk and Dialogue 「ing+」

仕事とは自分が読みの方向に世の中を加速させること

by 山口 高弘さん

GOB Incubation Partners 株式会社 Co-Founder

考える! 「社会課題をビジネスで解決する」

成功の反対はやらない事

by 及川 智正さん

株式会社農業総合研究所 代表取締役社長



ぼんぎぶ 突撃レポート

「地域のサードプレイス」の今

ご近所ラボ新橋 (東京都港区)

居心地のよさを生む、計算されたゆるさ

今回お邪魔したのは「第23回地域のサードプレイスを考える」に登壇された田淵瀬那さんが事務局を務める「ご近所ラボ新橋」。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働事業の場であり、「地域で活動したい人が始めの一步を踏み出す」地域コミュニティスペースです。ラボを訪れて感じたのは「つくりこまれたゆるさ」。地域活動を支援する前段として、誰もが居心地よく過ごせる工夫が満載です。無料のお茶は「決まった目的なくその場にいて良い理由」に。初めての人にはスタッフが声をかけ、顔見知りになることで安心感をつくりだします。また、看板やチラシなどは手作り。これは見た目のゆるさだけでなく、自分の得意を活かして地域に還元できる仕掛けなのです。

安心・安全な環境の中で、スタッフと訪れる方が立場を超え、各々の力を発揮してともにつくる場。「ご近所ラボ新橋」で目にした光景は、TIP*S が大切にしている場のあり方そのものでした。

